

第16回地域伝統芸能全国フェスティバルさいたま

同時開催

さいたま市民まつり  
さいたままつり2008

10.11(土)12(日)



歴史に学び、つむぐまつり  
つなげ未来へのレール

「さいたま」から発進

# 日本 まつりの

プログラム

The  
MATSURI  
サミット

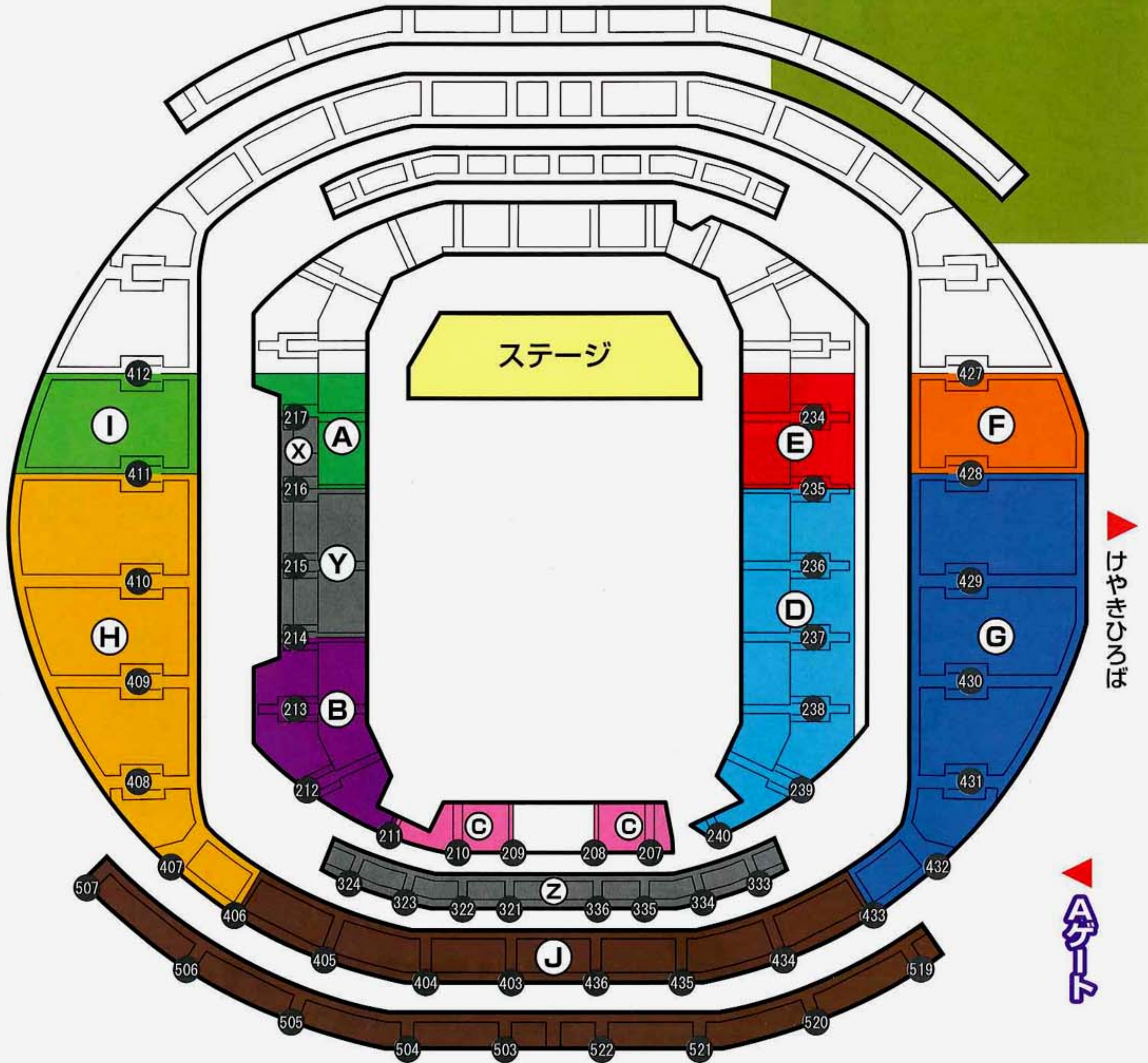
平成20年10月11日(土)～10月12日(日)

さいたまスーパーアリーナ

サテライト会場 JR大宮駅コンコース西口イベントスペース  
JR浦和駅東口駅前市民広場(コムナーレ前)

主催：さいたま市、財団法人地域伝統芸能活用センター  
共催：さいたま市民まつり実行委員会  
後援：国土交通省、経済産業省、文化庁、農林水産省、総務省  
独立行政法人国際観光振興機構、埼玉県、さいたま市教育委員会  
(社)さいたま観光コンベンションビューロー、さいたま商工会議所  
日本放送協会、東日本旅客鉄道(株)大宮支社  
助成：日本財団  
協力：(社)日本観光協会、(社)全日本郷土芸能協会





## ご観覧上の注意

- 満席のため、会場内は相当な混雑が予想されます。会場内の係員の指示に従い、空けずに詰めてお座りください。
- 荷物等は、座席に置かず足元に置いてください。
- 会場内での喫煙・フラッシュ撮影・携帯電話のご使用は固くお断りします。
- 会場内で係員の指示・注意事項に従わない場合は退場していただくことがあります。

# 日本のまつり ◆ 開催スケジュール

## 10月11日(土) サテライト会場

**プレ公演** 13:00~15:00 JR大宮駅コンコース西口イベントスペース  
15:30~17:30 JR浦和駅東口駅前市民広場(コムナーレ前)

## 10月12日(日) メインアリーナ

11:00 旧四市御輿連合渡御

12:00 **開会式** 主催者挨拶 さいたま市長 相川宗一  
主催者挨拶 (財)地域伝統芸能活用センター代表 会長 中村 徹  
お言葉 (財)地域伝統芸能活用センター名誉総裁 高円宮妃殿下

12:20 **オープニング** ~さいたま市のまつり~  
200連太鼓  
500人よさこい&よさこいソーラン連

12:30 桐生八木節(群馬県桐生市)  
えちごせきかわ大したもん蛇まつり(新潟県関川村)  
おわら風の盆(富山県富山市)  
よさこい鳴子おどり(高知県高知市)  
綾子舞(新潟県柏崎市)  
田沢湖龍神祭(秋田県仙北市)  
麦屋節・こきりこ(富山県南砺市)  
黒丸踊(長崎県大村市)  
サムルノリ(韓国京畿道)  
おおむた「大蛇山」(福岡県大牟田市)  
先住民族の舞踊(台湾台東県)  
秋田竿燈まつり(秋田県秋田市)  
奄美島唄(鹿児島県奄美市)  
阿波おどり(徳島県徳島市)  
石見神楽(島根県益田市)  
盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市)  
因幡の傘踊り(鳥取県鳥取市)

15:30 **フィナーレ** ~さいたま市のまつり~  
120m昇天竜  
竜神ダンサーズ・太鼓  
出演者によるフィナーレ公演

## コミュニティアリーナ

石見神楽(島根県益田市)  
サムルノリ(韓国京畿道)  
先住民族の舞踊(台湾台東県)

メインアリーナより生中継

盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市)  
麦屋節・こきりこ(富山県南砺市)  
黒丸踊(長崎県大村市)  
因幡の傘踊り(鳥取県鳥取市)  
阿波おどり(徳島県徳島市)  
奄美島唄(鹿児島県奄美市)  
秋田竿燈まつり(秋田県秋田市)  
桐生八木節(群馬県桐生市)  
おわら風の盆(富山県富山市)  
よさこい鳴子おどり(高知県高知市)  
綾子舞(新潟県柏崎市)

14:40~ ~さいたま市のまつり~  
さいたま市10区によるパフォーマンス

16:30~19:30 **イルミネーションパレード** (さいたまスーパーアリーナ周辺道路)

10月11日(土)・10月12日(日) **観光物産展** 出演地元市町村やさいたま市友好都市などによる物産販売(アリーナプラザ)  
10:00~16:00 10:00~17:00

※各イベント内容、出演者(演目)、時間などにつきましては、都合により変更する場合があります。

### 司会者プロフィール



#### 三遊亭 楽生 さんゆうていらくしょう

三遊亭楽太郎の総領弟子。1997年4月三遊亭楽太郎に入門「楽花生」、2008年3月「楽生」で真打昇進。三ヶ月に一度、江東区深川江戸資料館にて独演会、毎月、四谷・白楽・藤沢・大宮・八千代で勉強会を開く。本格的な古典落語を演じ、声量の豊かさとメリハリの利いた高座が特徴。有名な進学校(埼玉県立春日部高校)の卒業生で生徒会長を二期務めた。二つ目昇進後、中国語習得のため一年間中国留学。さいたま市岩槻区(旧岩槻市)出身。



#### 福島 央俐音 ふくしまおりね

声優、音響監督、漫画家。「第1回プリンセスまんが賞」(秋田書店)で漫画家としてデビューする傍ら、声優として、舞台・アニメ・映画などで活躍。代表的なものに「ヤンボウ・ニンボウ・トンボウ」の主演「ヤンボウ」、「それいけ!アンパンマン」の「兄もなか」ほか多数。現在は制作事務所「ウォーターオリオン」の社長兼プロデューサーとして、舞台・ドラマ・ライブ等のプロデュース、台本執筆を手掛けるなどマルチに活躍中。さいたま商工会議所会員。

新潟県関川村

群馬県桐生市

えちごせきかわ大したもん蛇まつり

桐生八木節

平成20年地域伝統芸能大賞地域振興賞受賞

●出演/えちごせきかわ大したもん蛇まつり

●出演/桐生八木節まつり協賛会



この祭りは、村民自身がまつりをとおして村の良さを掘り出し、それを肌で感じ、村に生きる喜びと自信を持ってもらうことを目的に村民全員参加の祭りとして昭和63年に始まった。毎年8月下旬に3日間開催され、メインイベントの大蛇パレードで村民によって担がれる大蛇は、村に伝わる大里峠「オオリトウゲ」の伝説に登場するもので、竹とワラで作った世界一長い蛇としてギネスブックにも認定されている。この大蛇の長さは、村に甚大な被害をもたらした羽越大水害が発生した昭和42年8月28日にちなんで82.8mとなっている。このため、まつりには水害供養としての意味もあり、また二度とこのような水害が起こらないでほしいという村民の願いが込められ、村を挙げての盛大な祭りとなっている。

八木節は群馬県桐生市、太田市、館林市、栃木県足利市を中心とした地域で生まれ、育まれた民謡である。桐生市で八木節が盛んになったのは桐生市には多くの機屋があり、人々は夏祭り、盆踊りは楽しみな行事であったため、祭りに力を入れたことによると言われています。桐生市最大のイベントである桐生八木節まつりは、市内各所での八木節おどりのほか、みこし渡御・子どもみこしまつり・全日本八木節競演大会など多彩なイベントが繰り広げられる。市内外から訪れるまつりファンが八木節を楽しんでいる。

高知県高知市

富山県富山市

よさこい鳴子おどり

おわら風の盆

●出演/帯屋町筋よさこい鳴子連

●出演/富山県民謡越中八尾おわら保存会



高知の夏の祭典「よさこい祭り」は、今では、日本中に広く知られているが、そもそもの始まりは昭和29年、「市民祭」と「商店街の活性化」を兼ねてスタートした。お隣の徳島には有名な「阿波踊り」があったので、何とかそれに負けない良いものをと、県内在住の作曲家・武政英策氏が作詞作曲、日本舞踊五流派のお師匠さんが振り付けを担当。素手ではダメだと、高知の田んぼで雀追いの道具に使われていた鳴子を採用し、「ヨッチョレヨ、ヨッチョレヨ」の軽快なリズムの「正調よさこい鳴子踊り」が完成した。…とはいえ、皆が同じ曲に合わせて同じように踊っているのは最初だけ。「わが道を行く」高知県人の性格からか、正調をアレンジするチームが増え続け、現在のスタイルに発展してきた。そして、いまもお「よさこい祭り」は、現在進行形でさらなる変化を続けている。

300年以上の歴史をもつ「越中八尾おわら風の盆」は、三味線と胡弓、太鼓などの音につれ哀調をおびた艶やかな唄声に合わせて、粋な法被姿や編み笠の浴衣姿で、優雅、洗練された踊りを繰り広げる祭りである。この「越中八尾おわら風の盆」は、富山県民謡越中八尾おわら保存会が主体となって毎年9月1〜3日の3日間開催されるが、20万人を超える観光客が訪れており、八尾町さらには富山県の観光、地域商工業の振興に貢献した功績は大きい。

秋田県仙北市

たざわこりゅうじんまつり  
**田沢湖龍神祭**

●出演/田沢湖龍神祭会



秋田県の東部ほぼ中央に位置する仙北市。日本一深い湖田沢湖と豊富な温泉や豊かな自然で知られる観光地です。まちのシンボル田沢湖には龍にまつわる伝説があります。田沢湖が田沢潟と呼ばれていた頃、院内というところに住むまれにみる美しい娘辰子がその美しさと若さを永遠に保ちたいと、観音様に願をかけた。満願の日申告により霊泉を飲んだところ龍に化身し田沢湖の主となってしまった。たざわ湖まつりは田沢湖の主「辰子龍」と十和田湖を追われて八郎潟の主となった「八郎太郎龍」が年に一度の7月第4土曜日田沢湖で出会います。町の若者たちに担がれた2体の龍が勇壮な龍神太鼓に合わせて舞い踊り、それを祝福するかのよう打ち上げ花火が夜空を彩ります。

新潟県柏崎市

あやこまい  
**綾子舞**

●出演/柏崎市綾子舞保存振興会



黒姫山麓の高原田、下野に伝わるもので、もとは付近の村々をめぐって演じたが、現在は黒姫神社の祭礼に演じられる。  
綾子舞と総称されるこの芸能は、踊り、囃子舞、狂言の三種に分れ、踊りは二、三人の少女が頭にユライと称する赤い布をかぶり、振袖、だらり帯、白足袋の服装（高原田は赤い袴の巫女姿）で扇を持って踊るもので小原木踊、常陸踊など十一種あり、初期歌舞伎踊を知る上で重要である。  
囃子舞は、一人舞で、はやしにつれて物まね手ぶり面白く舞うもので、恵比寿舞の他二十二種がある。狂言は海老すくい、三条小鍛冶等三十三種があり、いずれも芸能史上価値の高いものである。

長崎県大村市

くろまるおどり  
**黒丸踊**

平成20年地域伝統芸能大賞保存継承賞受賞

●出演/黒丸踊保存会



文明12年（1480年）大村領主の領地奪還を祝って舞ったのが起源と言われ、毎年11月の法養祭などで奉納される。出演者は、武士姿の男の子8人、花籠4人（紺の法被・手甲・脚絆・豆絞りの鉢巻き姿で、前に大太鼓を抱き、直径4.8m・重さ約60kgの大花輪を背負っている。）、「大薩摩（さつま）黒丸踊り」と書いた大旗2人、はやし方として鉦（かね）・鼓（つづみ）・笛・地太鼓・三味線・歌い手がいる。目がさめるような大花輪や大旗を背負い、大太鼓を打ちながら踊る様子は勇壮で全国有数の華やかさである。

富山県南砺市

むぎやぶし  
**麦屋節・こきりこ**

平成20年地域伝統芸能大賞活用賞受賞

●出演/越中五箇山麦屋節保存会・越中五箇山こきりこ唄保存会



毎年9月に南砺市の旧平村で行われる祭り。「麦屋節」は五箇山と飛騨の白川郷を結ぶ一帯に行なわれる祝儀唄である。「こきりこ唄」は南砺市上梨に伝承される古民謡で明るく西洋的な曲想がこの地方の民謡と趣を異にしている。昭和48年には「五箇山の歌と踊」が国の無形文化財に選択されている。平成元年に「五箇山麦屋まつり」と「こきりこ祭り」の2つの祭りの開催日をつなげ、4日間、いつでも五箇山民謡が楽しめるようにした。前半は下梨地主神社境内で「五箇山麦屋まつり」が行われ、後半は上梨白山宮境内で「こきりこ祭り」が行われ、五箇山民謡保存団体が舞台で総出演する。

秋田県秋田市

あき た かん どう  
秋田竿燈まつり

平成20年高門宮殿下記念地域伝統芸能賞受賞

●出演/秋田市竿燈会



竿燈まつりは、250年を超える歴史がある、東北を代表する祭りの一つで、毎年8月に秋田市で行われる。竿燈全体を稲穂に、連なる提灯を米俵に見立て、手の平、額、肩、腰などに乗せ、五穀豊穡を祈る。大きいもので、高さ約12m、重さ約50キロにもなる竿燈を操る妙技は圧巻であり、240本もの竿燈が会場となる竿燈大通りを埋め尽くす様は、光りの大河を思わせ、幻想的である。秋田市竿燈会は、町内・企業の差し手（竿燈をあげる人）・囃子方が所属する団体で、竿燈の伝承とまつりの中心的存在として活躍している。

福岡県大牟田市

だい じゃ やま  
おおむた「大蛇山」

●出演/おおむた「大蛇山」



「大蛇山」は、300年以上の歴史を持ち、江戸時代に水神信仰と祇園信仰が融合し、この地方独特の祭礼行事となっていたのが現在の「大蛇山」の始まりであると考えられている。祇園の総本社、八坂神社の御霊を祀った神社が大牟田市内には六つあり、それぞれに「大蛇山」を祭礼行事として行っている。笛や太鼓、鐘の音、代々に伝わるお囃子が高高く響きわたるなか、かつと目を見開き、裂けるように開いた口から七色の火を吹きながら、圧倒的な力強さを漲らせ我が物顔に練り歩く大蛇たち。高さ6m、長さ10mもある大がかりなこの山車は、200人〜300人もの引き手の汗と情熱によって生命を吹き込まれ、大牟田の夏と人々を祭りの渦に飲み込んでいきます。

徳島県徳島市

あ わ  
阿波おどり

●出演/阿波おどり振興協会、南越谷阿波踊り振興会(埼玉県)



阿波おどりは毎年8月12日から15日までの4日間、徳島市内中心部で開催されており、およそ130万人の観光客が訪れます。約400年もの歴史があり、今ではリオのカニバルと並び称されるほど情熱的で世界的な踊りで、期間中はエネルギーギッシュな踊りの渦に巻き込まれ街中が興奮のつぼと化します。徳島で生まれた阿波おどりですが、今では国内約80カ所で大会が開催されるほどに発展しました。その中でも、本場・徳島をはじめ、東京・高円寺、埼玉・南越谷が日本三大阿波おどりと呼ばれています。今回は、本場・徳島から有名連が所属する「阿波おどり振興協会」と、埼玉・南越谷から「南越谷阿波踊り振興会」による合同の阿波おどりを披露します。

鹿児島県奄美市

あ ま し ま う た  
奄美島唄

平成20年地域伝統芸能奨励賞受賞

●出演/中村瑞希氏



中村氏は、小学校5年生から地元の島唄クラブで本格的に島唄を始め、中学在学時より島唄大会において好成績を収める。平成10年に奄美民謡大賞で新人賞を受賞し、以後、県、九州、全国大会において数々の賞を受賞している。また、後継者育成にも活躍しており、自分が育った島唄クラブにおいて、小学生、中学生を指導するとともに、「大笠利島唄クラブ」において、毎週土曜日に地元の後輩を指導するなど島唄の保存伝承にも努めている。多忙の中、島内外の各種イベント、物産展に出演し、奄美のPR、島唄の普及に貢献している。

岩手県盛岡市

もり おか おど  
盛岡さんさ踊り

●出演/盛岡さんさ踊り実行委員会



さんさ踊りは盛岡市を中心にして岩手県各地で踊られていた盆踊り。伝承では、その昔、南部盛岡城下に羅刹鬼という鬼が現れ、散々な悪さをして荒らし廻りました。困り果てた里人達が三ツ石神社に悪鬼の退散祈願をしたところ、その願いを聞き入れた神様が悪鬼を捕らえ、二度と悪さをしないよう誓いの証として境内の大きな三ツ石に鬼の手形を残させました。鬼の退散を喜んだ里人達は、三ツ石の周りを「サンサ、サンサ」と云って踊ったのがさんさ踊りの始まりだということです。昭和53年から、様々な踊り方のあるさんさ踊りを統一し、「盛岡さんさ踊り」としてスタート。1万個を越す太鼓の響きや、華やかな3万人超の群舞により、東北を代表する夏まつりの一つとなり、期間中の人出は約116万人に及ぶ。

島根県益田市

いわ み かぐ ら  
石見神楽

●出演/石見神楽久々茂保存会



石見神楽は古くは室町時代に石見一円で大元神を信仰した田楽系の神楽として行なわれていた。その後、慶長年間、出雲佐陀神楽が猿楽能を脚色して神能として演ずるようになり、その佐陀神能が石見に普及した。江戸時代は神官が上演していたが明治以降、神官から土地の人々に受け継がれ、明治中期に現在の姿となった。リズムは活発な石見人の気性そのままに勇壮な八調子と呼ばれるテンポとなり、大太鼓、小太鼓、手拍子、笛のメロディーとリズムは聞く人を魅了し、金糸、銀糸の総縫いつぶしの絢爛豪華な衣装は視覚を夢の世界に誘い、舞手の厳肅な所作は神話の世界を再現させる。

鳥取県鳥取市

いなば かさ おど  
因幡の傘踊り

●出演/鳥取市横枕傘踊り保存会



鳥取市の横枕地方に伝わる民俗芸能で雨乞い祈願の踊りに始まったといわれている。江戸時代の天明年間に始まり、農村生活と密接に結びついて現在まで毎年地区の初盆供養として踊られ、また天下泰平、五穀豊穡を祈る行事として伝承されてきた。踊り子は、そろいの忠臣蔵の装束に白襷・白鉢巻・手甲・脚絆の勇ましい姿で、長柄の大傘をもって踊る。傘には美しい彩色がしてあり、緑は金銀の短冊で飾られ、百個余りの鈴が取り付けられている。この伝統芸能を保存伝承するために、昭和14年に保存会を結成し、今日まで活発な活動を行ってきた。

## 海外のまつり

台湾

## 先住民族の舞踊 (台東県関山鎮)

●出演/国立関山工商先住民族芸能舞踊団



関山鎮は台東県にあり、主な産業は農業ですが現在は観光地としても有名です。台東県には卑南族や阿美族など、約7つの先住民族がそれぞれ独自の言語や生活様式を持ち、独特の伝統文化を継承している。先住民族の唄や踊りは戦い、豊作祈願、恋愛などを主題とするものが多いが、今回は関山鎮にある「国立関山高級工商職業学校」先住民芸能コースの学生が、代表的な伝統芸能を披露します。

韓国

## サムルノリ (京畿道)

●出演/京畿道立国楽団



京畿道立国楽団(芸術監督キム・ヨンドン)は京畿道(キョンギド)を代表する韓国伝統音楽団体として「京畿道のソリ(音)を中心に、韓国伝統音楽の継承及び発展」を目的に1996年8月に創団されました。今まで700回余りの公演を通じて、韓国伝統音楽の正統性を継承しながら韓国伝統音楽の普及と大衆化に貢献してきました。また、新しい韓国伝統音楽の開発や現代の芸術との融合を通じて、実験的で格式にとられない公演を紹介するなど韓国伝統音楽の現代化や世界化のためにも努力しております。サムルノリは韓国の農漁村の広場で演奏されてきた先祖を祭る儀式である「農楽(ノンアク)」「風物」をベースに始まったもので、風物で使われる楽器のうち、四物(サムル)だけで演奏するものです。サムルノリの由来である四物(サムル)とは、ケンガリ、チン、プク、チャンゴの四つの打楽器を指します。

## さいたま市のまつり

私たちのさいたま市は、平成13年に「浦和」「大宮」「与野」の3市が合併して誕生し、その後、平成17年に「岩槻」が新たに加わり、現在の「さいたま市」となりました。

誕生後まだ間もないこともあり、全国的に有名な「祭り」は残念ながらありませんが、「さいたま市」らしさを活かし、旧市それぞれで培われた「伝統」と、新たに仲間となった「市民の融和」を「さいたま市のまつり」として表現しました。

## 1 旧四市御輿連合渡御

「浦和」「大宮」「与野」「岩槻」それぞれの地域を代表する御輿が初めて連合で渡御を行います。各御輿ともそれぞれの地域では最大級の御輿が集結します。

## 2 200連太鼓

市内の和太鼓連が結集し、約200張りの太鼓が一糸乱れぬ撥さばきで1つの曲を叩きます。

## 3 500人よさこい&amp;よさこいソーラン連合

市内のよさこい連とよさこいソーラン連が融合し、鳴子ならぬ「竜呼」を手に、「鯉」が「竜」に変身する「咲いたま竜呼おどり」を披露します。

## 4 120m昇天竜

市内各所に残る「竜伝説」をもとに誕生した「さいたま竜神まつり」のシンボルである「昇天竜」が、今回120m(恐らく世界最大)に成長し、登場します。



昇天竜



日本財団は、地域伝統芸能活用センターが行う  
「地域伝統芸能の普及・発展のための事業」を  
支援しています。

## 日本財団の事業

### ◆社会福祉・教育・文化などの活動への支援

障害者の自立支援、改修による福祉拠点の整備、福祉車両の配備、ホスピス・プログラム、子どもの健全育成、環境保全、災害援助、芸術文化や生涯スポーツの推進、犯罪被害者支援など、国内において、地域に密着した活動を支援しています。

### ◆海や船にかかわる活動への支援

日本が周囲を海に囲まれた海国であることを踏まえ、海洋船舶に関わる研究開発、航海安全のための国際協力、青少年への海事知識の普及活動などを支援しています。

### ◆海外における人道活動や人材育成への支援

国際機関、各国政府、NGOなどと協力し、人々が直面する貧困、飢餓、病気などの基本的諸課題の解決や社会発展を担う人材の育成とネットワーク構築を目指した活動を支援しています。



このイベントは競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて実施します。

Webサイトで  
情報を公開しています。

<http://www.nippon-foundation.or.jp/>